片桐英数塾通信

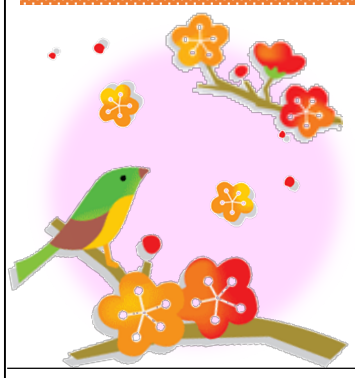
河合サテライトネットワーク校
全統模試実施校
坂本教室 OFFICE
TEL 24-1337
FAX 82-6185
天神教室
TEL 23-1899
E-mail
info@katagirijuku.com

自分で切り拓くしか道は無し！

遠慮はいらん！思う存分とんがってみろ！

年が明け、正月を過ごし、センター試験が終わると、スタートの号砲が響き渡ったような緊張感が塾全体を包みます。センター試験の自己採点を見つめ、頭がちぎれるくらい必死に考え、時に頭を何かに打ちつけたくなるほど悩み抜いて、二次出願をします。この二次出願までの間は、たぶん、どの受験生にとっても、これまで生きてきた中で最も緊張の高まる期間となると思います。

しかし、一たび二次出願をしてしまうと、覚悟が決まったからか、硬さの取れた、前を向いた、さっぱりとしたすがすがしい表情へと変わります。そして、これまで受験のために身に付けた知識が、自分の中で有機的に活動をし始めるのがこの二次試験までの時期だからかどうかは定かではないのですが、この時期の高三生や補習科生と話していると、とても興味深い話をしたり、それについての自分の考えなど、受験とは直接関係ない話で盛り上がることがあります。私としてはこんなことしていてはいけないのでしょうが……。



何年か前、二次試験の前のこの大事な時期に、当時高三の数名と話をしておりました。その時は「文系と理系に分ける必要はあるのか？」というテーマで話をしていました。「文系と理系とに分けているから、日本からはイノベーションが起きなくなってきているし、世界のプラットフォームになるものが生み出されないんだ」という意見も出たりして、とにかく盛り上がったのだけは覚えております。

その時、「Stay hungry. Stay foolish.」というスティーブジョブズがスタンフォード大学で行なったスピーチの話が出ました。さて、これはどんな意味じゃ？「飢えた狼みたいになって、できればアホのままおれってことちゃうか？」とか。まぁ、思いつきで好き勝手いろいろと言っておりました。（その意味についての自分なりの解釈は塾通信二〇一二年七月号に書いてあります。当塾HPからご覧ください）。

この時の話がきっかけで、私はスティーブジョブズに興味を持ち、彼の伝記や彼について書かれてある本を読みました。読めば読むほど、とにかく並はずれてとんがった人だったと思います。

そのスティーブジョブズが敬意を払っていたのがソニーであり、盛田昭夫氏（ソニーの創設者の一人）です。ある時、ソニーのVAIOにmac OSを搭載したものをソニーに持参し、「一緒にやらないかい」と持ちかけた話は有名です。そこからソニーという会社のことを知りたくなり、いろいろと本を読んでみました。

この会社は戦後、産声を上げ、日本の企業を引っ張りました。この会社の設立当初から求めていたものは、飛び抜けて優秀な人材でした。これは、新聞の求人広告からも伝わってきます。『「出るクイ」を求む！』、『英語でタンカのきれる日本人を求む』というのですから、当時のソニーもとんがった会社だったと思います。

ソニーと書きましたので、ホンダについても書きますと、創業者の本田宗一郎氏が言った言葉ですが『能ある鷹は爪を出せ』です。これまたとんがっております。

とこころで、「とんがる」と書いておりますが、「とんがる」とは、悪いイメージの言葉だと思われてしまうかもしれませんが、そうではないと思います。「何でもかんでもつっぱって反抗する人」ではなく、「自分の意見を持ち、やや攻撃的でも意見をぶつけあうことにひるまない人」だと思います。しかし、こういった人って疎ましがられますよね。時には和を乱す輩と見られるかもしれない。ですが、こういうタイプの人は自分の意見を持てるだけの努力を惜しまずできる人で、能力の高い人が多い。ただ、自分の意見を通すために多少荒っぽくなるかもしれないし、平気で今ある秩序を変えてしまおうとするところがあると思います。だから安定を望む人からは疎ましく思われることもあるでしょう。ですが、何か大きなものを前に進めようとする時は、このような人たちの力が不可欠だと思います。

先日、NHKの番組を見ていたのですが、「なぜ日本は一九九〇年以降立ち直れないのか」について「とんがった人材を組織から排除したからだ」ということが話されていました。その番組の中でも、「当時はとんがった優秀な人材が世の中を前に引っ張った」ということで、ソニー、ホンダが取り上げられていました。

先日、とある方と「地域を活性化するには？」というようなことを話していて教えられたのですが、「若者、よそ者、バカ者」が大切とのこと。ただ、誤解の無いように書きますと、「若いだけで何も意見をもたず、旅の恥はかき捨てとばかり無責任な行動をするよその人、正真正銘のバカ者」のことを言っているのではありません。「若いのに意見をしっかり持っていて、ここが地元でもないのに、誠心誠意この地元のことを考えて、バカだと思われようが懸命に働く人」のことだと、私なりに理解しております。だから、地域の活性化にも自分の意見と信念をしっかり持った、人から何を言われてもひるまず自分の意見が言える「とんがった人」が不可欠なのだと思います。

そして教育。教育は大改革が考えられています。イノベーションが生み出されないのは教育に問題があるからだ、というようなことも言われています。どんな方向に変わるかというと、知識よりも、自分で問いを立て、答えを求めていく方向へと見直されるようです。センター試験を知識重視の試験（私はそうは思わないのですが）とし、今の小学六年生くらいから廃止し、新テストを取り入れていこうとする議論が始まっています。これは、一律に全体の平均を引き上げようとするこれまでの「全体」のイメージのものから、それぞれがそれぞれの問いを持ち、それぞれが抱く問いに向かって解を求めるという「個」のイメージのものへの転換だと思います。どうやら、教育も「とんがった」方向へと舵を切ろうとしているのだと、自分勝手な解釈をしております。

時代が求める方向は「とんがった」方向であるように感じます。そう感じながら、私が思うのは、「『和して同ぜず』ができないといけない」ということです。『和して同ぜず』とは「主体性を持ち人と付き合う」という意味です。自分という「個」を見つめ、磨き、努力をする中で、初めて自分だけの信念、哲学が得られると思います。ただ、そういった人は、他の人からはどこか浮いて見えるかもしれないし、冷めたやつだと思われるかもしれないし、付き合いが悪いと思われるかもしれません。ですが、そういう人が、結局伸びます。力を付け、社会に出てから活躍します。これは、私の人生経験からも間違いないと言い切れます。

まずは自分です。自分が立たねば何にも始まりません。誰も認めてくれません。誰に何を言われようと、とにかく自分を磨くことに集中してください。

時代は無情にも強くその方向へと流れを変えています。

『年納め学習会』開催!!

高3生が大晦日に集結！意欲的に受験勉強に励みました。
「それぞれの夢・目標に向かって頑張ろう！
受験を制して良い年にするぞ！！」

中３生冬期特別講習を終えて

弱点分野や苦手分野の早期克服をするとともに、「学習の診断」「高校入試」対策として実戦演習を行いました。参加した中３生の感想を一部紹介します。

- だんだんテストへの抵抗もなくなり慣れることができたので本当に良かったです。みんなと勉強することで刺激もうけることができて頑張らなければと思うこともできました。（T.Mさん）
- ねばり強く問題に取り組めるようになった。少しレベルの高い問題でもひらめくようになったし、解くスピードも上がったので良かった。（K.Yくん）
- 難しい問題がたくさんあったけど、解き方が分かると「なるほど！」という気持ちになりました。（H.Aさん）
- 自分の苦手な分野が分かったので、これからの勉強に役立てたいと思います。合格はちまきをお守りに入試に向けて頑張ります。（N.Kさん）
- 英語のリスニングが苦手だったけどテストをしていくうちに問題の傾向が分かった。数学は証明がまだ苦手だけど、それ以外の問題が解けるようになってきたので良かった。（M.Kくん）
- 詳しい解説を聞いて、２回目に自分で問題を解くとすらすら解けるようになった！テストの点も上がってきて、自信もついたと思います。（K.Mさん）

小学６年生対象 新中１準備講座

中学生で習う内容を先取りするだけでなく、将来伸びる為に必要となる土台作りをサポートします。わからなくてもすぐにあきらめないで、じっくり考えるタフな思考力を楽しみながら身につけていきましょう。計算王・クイズ王・漢字王決定戦へのエントリーお待ちしています！

教科：英語・算数・国語　月謝：７，５６０円（税込）/１２０分×月４回

開講日：毎週木曜日１８時～２０時
または 土曜日１６時半～１８時半

パズル道場 算数 国語 算数MAX も引き続き受講生募集中！

片桐英数塾からのお知らせ

天神教室・坂本教室の2月のお休みは、
2月1日(日)，8日(日)，15日(日)，22日(日)です。

お迎え時の車の混雑について、保護者の皆様にご理解とご協力をお願いします。お迎えの際には、駐車場内での安全走行、エンジン停止にご協力いただくとともに、ご近所出入口などでの路上待機、他の駐車場の無断使用などはご遠慮いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

こちらのQRコードから塾のHPにアクセスできます。

HPｱﾄﾞﾚｽ http://www.katagirijuku.com
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ katagirijuku@docomo.ne.jp